

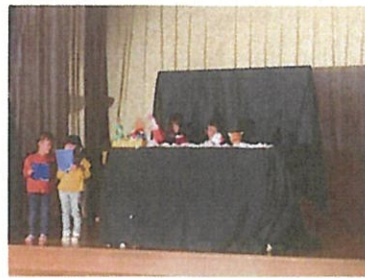
すずらんぐみ 12がつ



○遊び込む過程、物語を作る過程、発表までの過程と、それぞれの場面で一人ひとりの個性が活き、活躍した。

△保育者はその都度一人一人を認め、友達の良さ・すてきな所に気づき、きっかけや自己肯定感に繋がった。

△グループ化したことで、子ども同士の対話がよく見られた。グループのことをよりよいものにしたい!という気持ちが見られた。一人ひとりにある役割を責任をもって果たそうとすることができた。クラスの友達と達成感・満足感を共有し、味わった。



△ひとつずつ子どもたちと一糸に時間をかけてすすめた。子どもたちの中で物事をすすめていく糸馬値となっていた。



< 次月に向けて >

「発表ね」ということ。おたのしみ発表会につながりね

今回の糸馬値を礎に、お楽しみ発表会や回行事(一日入回やひなまつり会)では、友達の⊕の面をより捉え尊重できる学級を目指して取り組みたい。回行事をひきはる立場を糸馬値し、自信をつけはじめたため、今後断続する中で最高学年としての自尊心や責任、自信を感じたり、意識したりできればと思う。

子どもたちがTリあげたT能ものにびっくりしたね。